

# 信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報

【第5号】

発行人 倉田 稔  
事務局 長野市西長野6ノロ  
信州大学教育学部  
教育工学センター内  
TEL (0262) 32-8106(代表)



## 大学院の設置によせて

信州大学大学院教育学研究科  
(修士課程)設置期成同盟会長

長野県知事 吉村 午良

県民待望の信州大学大学院教育学研究科(修士課程)の設置が実現しましたことを、心からお祝い申し上げます。本同盟会としても県民各層の支援のもと、その設置を強く要望してきたところであり、ここに予想をこえて早期に実現をみたことは誠に喜ばしい限りであります。

さて、信州大学教育学部は、教員への就職率が全国一とお聞きしており、本県教育界にもこれまでに多数の人材を供給されております。また同窓生の各位は、児童・生徒の教育に深甚な努力を傾注されておりますことに対し、平素より敬服しておるところであります。

近年、社会の急激な変化や価値観の多様化に伴い、教育現場においてさまざまな影響や問題も指摘されており、これらに対応する方が今日の学習課題となっております。子供たちの意欲的な学習

や健やかな成長には、教師一人ひとりの資質・力量が深く関わっていることはいうまでもありません。教師としての使命感に燃え、幅広い視野を持ち、豊かな人間性と高度な教育研究に基づく専門性を備えた人材への期待が、ますます大きくなっている現状であります。このような状況の中、大学院教育学研究科が教員養成において、輝やかしい伝統を持つ教育学部に設置されますことは、誠に時宜を得たものであります。大学院設置による教師の資質向上は、本県の将来を担う人づくりのため、ひいては県民全体のパワーアップのためにも是非とも必要であり、大いに期待を寄せるものであります。今後とも大学関係者の御努力が県民の皆さんのあたたかい御支援により、大学院がさらに充実し、二十一世紀に向け限りなく発展されますことを心から祈念申し上げます。

大学院への期待と

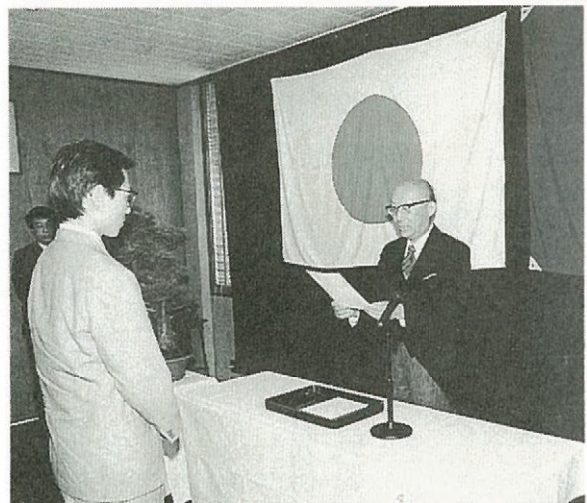


## 大学院への期待と

同窓会長 倉田 稔

多くの教育関係者と県民の熱願であった教育学部への大学院設置が決定され、開設初年度を迎えることができました。お力添えやお骨折りのいたた。お力添えやお骨折りのいた

だいた多くの関係者の方々に心よりお礼と感謝を申し上げます。本当に有難うございました。この度設置された大学院教育学研究科(修士課程)は、本県教育界に限らず、他県の教育界も含め、多くの刺激や課題を与えてくれると共に、二一世紀をめざす教育社会に、多くの有為な人材を



大学院入学宣誓式で鈴木学部長より許可書授与



育て送り出してくれるものと心から期待しております。

現今、生涯教育の基盤としての学校教育や社会教育に多くの課題が山積されていることが、具体的に指摘され、その対応が急がれています。このような時に、教育専門職としての教職員の力量を高めると共に、焦点的課題を究明できる人材の育成機関である大学院ができたことは力強い限りであります。

「教育は人創りである。」と言われております。人としての教育専門家が有為に育つためには、この大学院が将来的にどの方向にむいて、どのように成長していくかにかかわっておりますが、信頼をもって見守っていきたいと思っております。この意味においても、本年度の大学院の誕生は、私も同窓会への課題の誕生でもあります。

昔より、「氏より育ち」という教えがあるとおり、同窓会としても多くの面よりご支援申しあげ、多くの人々の熱い期待の中で、所期の目的を達成させますようお願いいたします。

未設置教科の大学院専修課程設置も間近のことと思えます。教育学部の皆様のご努力に心より感謝申しあげると共に、今後のご努力にも心よりご期待申しあげております。

いま、同窓会の一歩の課題は、大学院設置という多くの方々の熱願が実り豊かに発展するためにも、同窓会組織をより拡充・発展させることである。県内の各都市並びに県外等に設置されている支部組織の一層の充実です。その一つが会員の拡大で、この問題が急務です。

会員の皆さん、一人ひとりの隣にいる未加入者に会存立の意義をご理解いただき、一人でも多くの同志の仲間入りにお力添えをお願い申しあげます。多くの皆さんに心より感謝申しあげ、お礼とお願いいたします。

## 平成三年四月、信州大学大学院

### 教育学研究科(修士課程)発足にあたって



学部長 鈴木 金彌

(一) 平成元年四月、学部長に就任して以来、口を開けば「大学院を設置したい」と言い続け、同窓会をはじめ多くの方々にご協力・ご援助をお願いして参りました。この度、平成三年三月十二日に信州大学大学院教育学研究科(修士課程)は、当初の計画通り二専攻(学校教育、教科教育)、七専修(学校教育、国語教育、数学教育、理科教育、音楽教育、保健体育、技術教育の各専修)、学生定員二四名で設置が確定いたしました。まことに嬉しく、まず同窓会の方々に心から感謝申しあげます。ありがとうございます。大学院発足にあたり、四月四日から四月一〇日まで大学院生の入学願書受け付け、四月一六日入学試験、四月二二日合格者発表、四月三〇日に入学宣誓式の日程で新入生を迎える準備を進めてまいりました。現職教員の方々も一〇名入学してください、当大学院は同窓会の皆様ともますます身近かなものになりつつあると言えましょう。

(二) 信州大学大学院教育学研究科(修士課程)は、子どもが感動し、憧れるような深い専門的な知識と技術を持ち、子どもが毎日の生活の中で自分の行動を律している内面世界の構造が見え、その子どもの内面世界に適切に応答できるような教師の養成を主目的としています。子どもの内面世界が見えるためには、先入観のない澄んだ心と、子どもが自分の内面世界をさらけ出してくれるような信頼感と、子どもが憧れるような専門的な知識や技術と、日々成長を続ける子どもの生命活動そのものに対する畏敬の念とが必要で。

### 信州大学大学院教育学研究科 設置に向けての活動の概要

同窓会副会長 松 林 大

十数年前より信州大学に総合大学院や大学院教育学研究科の設置が、大学の内外より求められてきた。平成元年度からはさらに、大学院設置の機運も高まり、鈴木学部長は教官組織等の内部事情



を考慮し、平成三年度こそ設置の好機と判断されたが、この時期、信州大学全体から見ると誠に不利な状況にあった。すなわち、繊維・工学部の工学系の博士課程や農学部との連合大学院博士課程は、既に概算要求を出しながらストップしていた。ここに、教育学部の大学院設置の概算要求の提出は工学系、農学系の大学院の設置と競合するものと大学本部事務局は危惧した。

この厳しい状況下にも関わらず学部長の要請を受け、本同窓会と信濃教育会が発起人になり、長野県下の政界、業界、教育界等、各界の主要団体を網羅し、信州大学大学院教育学研究科(修士課程)設置期成同盟会の結成となり、以下の通り実現に向けての運動を展開してきた。

平成二年五月二一日(月) 期成同盟会発会式

会長に吉村午良長野県知事等役員を決めると共に、会の運動方針等を決定した。

五月二八日(月)・二九日(火)

長野県選出国会議員に対し、期成同盟会の顧問を委嘱し、全員が快諾された。

六月七日(木) 第一回幹事会

大学本部、文部省、長野県選出国会議員等への陳情計画を立案。予算案、参加団体の拡大の計画を立案。

六月一〇日(火) 第一回陳情

大学本部への陳情。中西事務局長より、教育学研究科の設置は極めて困難であるとの説明。

六月一八日(月) 第二回陳情

長野県選出国会議員と文部省への陳情。全議員は趣旨に賛同し、協力を約束。「大学の整備がつけば大学院は設置する」との文部省大学室の山下室長の談話があった。

陳情後文部省より急速に書類提出の要求あり。

六月一九日(火) 県会交渉

県会議員の正副議長及び各会派代表に意見書の

提出を依頼した。

七月六日(金) 第二回幹事会

第三回、第四回陳情計画の立案。予算案(経費一〇〇万円)の決定。

七月一三日(金) 第三回陳情

国会議員の文教委員(柳川覚治氏、小坂憲次氏、田中秀征氏)に陳情。文部省にも再度陳情。

七月一八日(水) 第四回陳情

大蔵、予算関係の国会議員(羽田孜氏、宮下創平氏、村沢牧氏)に陳情。

七月三〇日(月) 文部省より、審査書類を提出するよう指示がある。

八月一三日(月)〜二四日(金) 文部省による予備審査。

八月二四日(金) 文部省は信州大学大学院教育学研究科修士課程設置の概算要求を出すことを決定したとの連絡がある。

九月三日(月) 文部省より補正申請がくる。

一〇月一一日(木) 大蔵省、文部省に対する今後の対応について、幹事長が宮下・小坂両議員事務所を訪問。

一一月一一日(木) 第三回幹事会

大蔵省への陳情計画の検討。

一一月一七日(土) 謝礼文書の発送。

長野県選出国会議員に謝礼と今後の協力依頼文書を発送。

一一月一七日(土) 補正審査結果の内示。

一二月二七日(火) 第五回陳情

大蔵省への陳情と国会議員事務所への訪問。

一二月二七日(木) 大学院教育学研究科が大蔵省の平成三年度予算案に計上。

一二月二八日(金) 長野県選出国会議員にお礼の電報を発送。

一月三十一日(木) 第六回幹事会

期成同盟会の活動報告と本会の存続について話し合われた。

二月二六日(火) 文部省による実地視察が行われた。

三月一二日(火) 審査委員の全体会で信州大学大学院教育学研究科(修士課程)の設置決定。

以上のように平成三年度に大学院設置は極めて困難と言われていた中で、これを打開し、推進した本会の努力は高く評価されよう。

今後、後発の社会、美術、家庭、英語各科の早期実現を念願しつつ報告としたい。

### 大学院に入学して

昭和五十一年度信大教育学部卒業

橋 詰 辰 男

善光寺の御開帳でにぎわう四月三十日、信州大学大学院教育学研究科の入学宣誓式が行われました。研究科長の鈴木金彌教育学部長先生より、「大学院といっても校舎はなく、机と椅子を用意しただけだが、それが最大のプレゼントだ。実験装置は手作りで、必要な文献は全国を回って集める。そうやって自ら学ぶ姿勢で、花の一期生としての道を開いていって欲しい。」との励ましを受け、身の引き締まる思いがしました。

教育学部に大学院の設置を頼み、その実現のために長年にわたり御努力いただいた大学及び同窓会の諸先輩の方々の御労苦を、深く心に刻み込まなければと思いました。

今こうして大学院がスタートし、現場を離れ思う存分自分の研究テーマに迫れる時間と環境を与えていただいたことに深く感謝いたします。それと同時に、大学院一期生としての自覚と責任を持って、自ら学ぶ道を切り開いていかなければならないとの決意を新たにいたしました。



# 教育学部の近況について

## 第一回目の推薦入学

をふりかえって

平成二年度入学試験委員長

田 巻 義 孝

小俣前入試委員長が前報(第四号)に書かれたように、平成三年度入学試験から一部の教科を除いて「特別選抜(推薦入学)」制度を導入しました。

昨年十一月中旬に、一回目のいわゆる選抜試験(小論文もしくは実技検査及び面接)を実施しましたが、推薦入学による合格者はこの選抜試験だけで決まるわけではありません。それぞれの高等学校長が「この生徒こそ教育学部に入学して、勉学を重ねて地域の将来の教育を担ってほしい」という生徒を推薦することから、実は入学試験は始まっています。大学のある関係者から、私たちが「推薦入試」といっているのを「推薦入学」と改めてほしいといわれたことがあります。この真意は、教育学部で試験を行わずに、合格できるかどうかの判断は推薦者(高等学校長)に委ねることを意味しています。推薦制度の本来の主旨を考えれば、この意見を取りいれる必要があるかも知れません。しかし、私たちは今回そこまで踏みこめなかったのですが、これまで行ってきた入学試験による合格者判定と推薦制度による合格者判定とは、本質的に違うという自覚だけは十分もっています。

## 進路多様化の傾向

平成二年度 就職委員長

藤 沢 謙 一郎

平成二年度卒業生は、入試制度改革で複数大学の受験が可能になり、県外出身者がこれまでにない多数(一二〇名、三八%)を占めた学年です。就職の動向が注目されましたが、結果は表の如くになりました。

昨年度と比べて大きな変化は、教職の比率が六八・三パーセントと、一五・八パーセント低下し、教員以外(企業、公務員)が二〇パーセント、大学院等進学者が一〇パーセントと、いずれも倍増したことです。学生の進路の多様化が現われてきました。ただ、教員養成を目的とする学部として、当初より教職を志した学生が一次試験で九六パーセント、二次試験で第二次採用候補者を含めると九九・五パーセントと高い合格率であったことは、大変幸せでした。

進路の多様化は時代の流れかと思えますが、教職を志す学生にはよりよき教師となるよう、学部全体の取り組みが必要と痛感しています。同窓会の皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。

## 平成二年度卒業生の進路

(平成三年三月十日現在)

## 生活科への学部の

取り組み状況について

生活科担当責任者

布 谷 光 俊

学部でも本年四月より「生活科教育法」2単位、教科専門「生活」2単位の授業を開設することになった。今後は、これらの単位が現二年生以降の学生の小学校免許取得に必修となります。

生活科の具体的授業運営については、平成元年度より生活科検討小委員会、続いて生活科運営委員会等で種々の検討を重ねてきた。学部組織等の関係で、まだ生活科専攻学生を擁するまでには至らないが、教育法二クラス、教科専門四クラスの授業を、生活科に関連する八教科の教官がチームティーチング方式で担当する。

例えば「生活科教育法」の授業では、中心教官が6コマ、各科の教官が2コマずつ8コマ、非常勤の現職教官が1コマを順次分担し、生活科設置の趣旨や生活科の目標論、内容論、指導論、評価論、実践事例の研究等を中心に展開する。

学生諸君がやがて卒業し現場に出た時、生活科学習を通して一人一人の子どもの物や事の本質に出会わせ、子どもの自ら学ぶ意欲と自立を促せる力量ある教師になってくれることを願って、学部生活科授業の効果的な運営と実施に当たりたい。



誠に残念なことに、この点に関する私たちからの情報伝達が不十分だったために、あたかも高等学校三年一学期までの成績概評の優れた生徒が入学できるなどの誤解や高等学校で被推薦者を決めかねるなどの問題点があったようです。高校でのペーパー・テストに類する成績概評に基づいて、また教育学部で一〇〇%合格者を判定すれば、これまで行ってきた入学試験による合格者判定と本質的には同じです。

教師の資質としてはどのような個性が最もふさわしいかは、私個人考えあぐねており、迷っていますが、たとえば「覇気があり、どんなことでもくらいつき、少々のことではへこたれない」ような生徒を、それぞれの高等学校長と教育学部とが協同体制のもとでみつけて、入学してもらいたいと考えております。これまでの入学試験とは違うんだということを念頭において、教師となるにふさわしい生徒を推薦してくださいませようお願いします。

今年二月下旬に行われた(従来通りの)入学試験では、小学校教員養成課程・教育学科の選抜試験が「英語」から「面接だけ」に変更されました。このことは、入学者選抜試験としてどのような試験が望ましいかという学部「迷い」の反映でもあります。多数の生徒が志願し、決められた日程のなかで面接を終えることができるか、実は不安でした。ところが、予測に反し、志願者は少なかったのです。大学入試センター試験をも課していましたが、ペーパー・テストは苦手だけれども「我こそは!」というチャレンジ精神をもった生徒は、そんなに少ないのでしょうか。これは誤解であればよいのですが、予備校あたりの大学入試センター試験の得点による「輪切り」現象に、私たちが惑わされているような思いがしてなりません。第一回目の推薦制度と面接を受けた教育学科の

進路	人員(名)
長野県義務教育教員	175
長野県高校教員	3
県外教員	33
民間企業	56
公務員	7
大学院進学等	31
未定	4
合計	309

入学者は、現在教養部に在籍しています。これらの入学者が、今までの入学者とどこか違う(それも良い方に)といった印象を教養部教官に与えているだろうか、それこそ固唾をのんで見守っています。教育学部の新しい試みが、教育学部自体と地域の教育界にインパクトを与えるものであってほしいと願っています。

教育学部合格者に占める長野県出身者の数が減ったことは、新聞やテレビで報道された通りです。これも「学力問題」の論争に少なからぬ一石を投じることになるでしょうが、生徒にとって教職が魅力のある職でなくなりつつあるのではないかと懸念しています。教師になりたいという思いにはさまざまなものがあるでしょうが、万事金次第の風潮や教育界の不愉快なできごとだけが報道され、大きく扱われることによる影響を憂慮しています。その一方で今年から教員養成学部としての教育学部に大学院(修士課程)が設置されました。教育学部が「なんとでも入学したい」魅力ある学部となるために、入試委員会としての努力がもっと必要だと思っています。

### 『卒業生名簿』 刊行にあたって

編集委員 渡辺時夫

信州大学教育学部の創立四十周年を記念して、平成三年四月、卒業生名簿が刊行されました。昭和五十六年版を基に全面改訂し、新たに全同窓生の出身地を記載するとともに、約三、〇〇〇名を追加いたしました。また、検索用データとして、学生時代の所属研究室、研究会、同好会等をご本人の申告に従って入力いたしました。これらの情報の訂正、追加、削除は随時可能です。

名簿刊行に当り全同窓生にお便りを差し上げましたところ、回答が頂けなかった同窓生は当初四千名にのぼりました。不明者をできるだけ少なくするため繰り返しお便りを差し上げるなど努力をいたして参りました。このためもあって、名簿の刊行が予定より遅れてしまいましたことをお詫び申し上げます。

最後に名簿作成にご協力頂いた数多くの方々へ深く御礼申し上げます。



新しい『卒業生名簿』



# 第三回 総会 報告



ご講演中の篠原千広先生

信州大学教育学部同窓会第三回総会は、平成二年八月十一日(土)長野市旭町信濃教育会館講堂において、七十名の参加者を得て開催された。開会宣言の後、倉田稔会長の開会挨拶があり、つづいて会則16条により大井博・牧三代の両氏が議長団に選任された。また、議事録署名人には、岡田富雄・関啓の両氏が選任され、書記には内藤光雄・渡辺時夫の両氏が任命された。次に議事に移り、以下の三議案が審議された。

ポストを歴任)としての豊富な体験に基づくものであり、具体的な事例を取り混ぜてのお話は分かりやすかった。「学校事故の賠償責任者について」などは、教育関係者にとって切実な内容であったこともありがたいへん好評であった。

記念講演終了後、犀北館において講師の篠原先生を囲んで懇親会が開催された。大広間が満員になるほどの参加者があり賑やかで楽しい一時を過ごすことができた。

## 会議日誌抄 (平成二年度)

- 四月二十日 学内役員会
  - 一、経過と今後の予定について
  - 二、通常総会について
- 五月一日 幹事会
  - 一、通常総会について
  - 二、会報発行について
- 五月十二日 監査会
- 六月十七日 理事会
  - 一、通常総会議案書等について
  - 二、期成同盟会について
- 十月二十七日 幹事会
  - 一、通常総会について
- 一月六日 理事会
  - 一、事業報告
- 二月二十三日 幹事会
  - 一、平成二年度のまとめ
  - 二、平成三度事業について

## アラムナイ紹介

### 昭七会の歩み

由井 ふゆ子

私は昭和二年松本女子師範学校一部に三三人で入学し、昭和七年三月卒業しました。当時松本女子師範には彰風会という同窓会があり、毎年六月第二日曜日に総会を行っておりました。これは明治三十八年長野県師範学校より女子部が分かれたその年からずっと昭和十八年まで続いておりました。戦争のため十八年より二十年まで休み、終戦後の二十一年に一回だけ開催しましたが、その後は学制改革のため母校までなくなってしまいました。

彰風会がなくなりましたので私達同級生だけの同級会が、二十二年より昭七会(昭和七年卒業の意)として発足しました。以来今日まで年一回、休むことなく四〇数回続いておりますが、実は昨年より「もう今後あまり長く出来ないのでは年二回にしましょう」と言うことになり、昨年より年二回を実行しております。吾ながらよく続くとおもいます。私共の同級生は変わりものの集まりで、在学中から勉強は余り好きではありませんでしたが一緒になつて感激することが好きのようです。在



野辺山高原にて (平成元年10月)



第1号議案 平成元年度事業報告書・収入・支出計算書および財産目録の承認について  
 関谷俊行幹事長より総会資料に基づき平成元年度事業について、また、横田通會計担当幹事より同じく一般會計収支決算書ならびに財産目録のそれぞれ説明があり、清水厚実・山口勇内両監事所用のため、関谷俊行幹事長が委託された會計監査報告書を代読し、全員一致で原案通りこれを承認した。

第2号議案 平成二年度事業計画書(案)および一般會計収入・支出予算書(案)の承認について  
 ① 平成二年度事業計画書(案)について幹事長より提案、特に組織の充実(支部組織化の推進)および理事会に「基本財産管理委員会」を設ける件について詳細な説明があり、審議の結果原案が承認された。

② 平成二年度一般會計収支・支出予算書(案)について横田通會計幹事より説明があり、審議の結果原案が承認された。

第3号議案 役員的人事について

倉田稔会長より滝沢忠男副会長が辞任(本部理事に戻る)について提案説明があり、全会一致これを承認した。つづいて、後任に新井好仁氏の選出について同じく会長より提案があり、承認された。新井好仁氏よりは、副会長就任受諾の決意表明がなされた。

議事終了後、本会名誉会長である鈴木金彌教育学部長より祝辞を頂き十一時十五分閉会した。

総会に引き続き記念講演に移った。講師は昭和二十二年長野師範学校卒業の篠原千広氏。「学校事故と法律について」と題する篠原氏の講演は、法律の専門家(東京弁護士会会長など多数の重要

研究助成海外派遣学生便り

稲垣 三枝子

前略

皆様、如何お過ごしですか。この度は助成金を賜り、誠に有難く存じます。私もこちらに来て、丁度半年が経ちました。半年と一口で言っても様々な事がありました。大きなトラブルはありませんが、日本との文化の違い、そして言葉の面に戸惑うことも多いです。私の通っているメトロポリタン州立大学はコロラドの都市部・デンバークにあり、造りがとても近代的です。こちらの冬の寒さは厳しいですが、春や夏にはコロラドの雄大な自然が私をつんでくれます。私の人生の中で、良い経験をさせていたたいと心から感謝しております。勉学の面ですが、アメリカの学生の勉学に対する姿勢には感服させられます。睡眠時間は日本にいた頃ほどとれません。残された四ヶ月、出来るだけ多くのことを吸収して有意義に過ごしたいと思えます。

最後に、皆様のご健康を遠くから祈っております。誠に有難うございました。

平成三年 二月十五日



ニューヨーク市マンハッタンの先端  
 ニューヨークハーバーにて

学中試験をボイコットしたこともありましたが、皆音楽が好きで数人寄ると歌い出すのです。「ハイ二部で、ハイ三部で」とか言ってよくリードする人もいるわけです。昨年は二回目を海ノ口温泉で二泊し、中の一泊を第二の軽井沢と言われる野辺山高原を散歩し、天文台とかスケート場その他見学しましたから、もう二、三年で八〇才になるのもう見学はたくさんということになりました。現在、在籍は二人ですが、毎年集まる人は一〇数人です。遠くは広島からお嫁さんが付き添って参加する人もいます。話題は年と共に変化していきますが、四〇数回の記録も保存してあります。

母校がなくなったように寂しい思いをしておりますが、信大教育学部として同窓会も発足して頂き、甦った喜びを感じております。

平成2年度転退職教官

- 瀬戸 仁先生 (国語科教育)  
 昭和59年4月 信州大学教育学部  
 平成3年3月 停年により退職
- 櫻井 敏雄先生 (化学)  
 昭和61年5月 信州大学教育学部  
 平成3年3月 停年により退職
- 樋口 貴子先生 (体育理論・体育史)  
 昭和24年8月 信州大学長野師範学校  
 平成3年3月 停年により退職
- 三石千代子先生 (家庭管理)  
 昭和22年3月 長野青年師範学校  
 昭和24年6月 信州大学教育学部  
 平成3年3月 停年により退職
- 清水 敏先生 (法律学)  
 昭和58年4月 信州大学教育学部  
 平成3年3月 早稲田大学へ転出



信州大学教育  
学部同窓会

第四回通常総会 (通知)

日時

平成3年8月11日 (日)  
午前9時30分～

会場

長野市県町 犀北館

次第

- 1、開会
- 2、会長挨拶
- 3、議長団選任
- 4、議事録署名人の選任並びに書記の任命
- 5、議事

第一号議案 平成2年度事業報告書、決算書および財産目録の承認について

第二号議案 平成3年度事業計画書(案)および予算書(案)の承認について

第三号議案 役員の改選および顧問の推戴について

第四号議案 同窓会館建設問題研究委員会の設置について

- 6、来賓祝辞
- 7、閉会

《注意 会場が昨年と変わりました》

記念講演 (一般公開)

「信州の教師を語る」



前長野県教育史編集主任

中村 一雄氏

記念講演終了後、犀北館において、懇親会(会費五、〇〇〇円)を開催します。こちらへも多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

△プロフィール▽

一九一二年(明治四十五年)生まれ、長野県師範学校卒業

長野県視学・指導主事―戦後の教育行政、主として新教育への改革に

信州大学附属長野中学校副校長―教育養成、県内小・中学校長も歴任

長野県教育史編集主任―一七年間(昭和四十一年から五十八年)全一八巻完成

長野県近代史研究会代表委員―一五年間(昭和四十三年から五十八年)

日本教育史学会会員(現在)

△講演要旨▽

「信州の教師を語る」

〓 そのバックボーン 〓

今、教育界は理想を失なっていないか。理想を失なうと教育は「技術」に支配され、「教育は存在である」という理想を失なってしまう。

この時、教師は単なる技術者になりさがり、子どもの生きる姿を見失なってしまう。

私は長い間「長野県教育史」の編集にたずさわり、長野県教育を支えた県民の精神的、物質的風土の実体をつかむことができた。このような、県民の精神的風土と明治以後の信州教育にたずさわった教師達の人物像を軸に、本来的な信州の教師の姿を語りたいと思う。

〓 事務局からお願い 〓

同窓会費は終身会費です。県内小・中学校へは、今年も振替用紙が届きますが、二度納入されることのないようご注意ください。既に納入済みの各位には登録ラベル貼付の上、個人宛ご案内をお届けしています。

◇ 編集後記 ◇

会報第五号は、平成二年五月に結成された教育学部大学院設置期成同盟会結成以後、大学院設置に到った経過とお祝を中心に編集いたしました。これをみますと、期成同盟会が活動した様子や、これを支えてくださった方々のことをうかがい知ることができ、大学院設置への期待の大ききもご理解いただけることと思います。

ご多忙のところ、原稿の執筆をしていただいた方々に深く感謝を申し上げます。編集後記といたします。(中村・小金沢)